



今こそ「ONE TEAM」となり、JR産業に集うすべての仲間の雇用と生活を守ろう

2021年 2月12日

日本鉄道労働組合連合会

## JRグループ労組連絡会「2021春闘総決起集会」

これまで経験したことがない逆風下にあっても、

**雇用と生活の維持を第一義に、「ONE TEAM」で前に進む！**

JRグループ労組連絡会は2月10日、大阪市「TKPガーデンシティ大阪リバーサイドホテル」をメイン会場に、東京、名古屋、高松、博多のサテライト会場をテレビ会議システムで繋いで、2021春闘総決起集会を開催した。集会では、目下、多くの企業で一時帰休の実施をはじめ、雇用調整を目的とした在籍出向や希望退職の募集等が行われているといった危機的な雇用情勢を踏まえ、今次闘争においては、「すべての仲間の雇用と生活の維持」を最優先としつつも、JR各社や国内の同業他社との格差が顕著な賃金を「働きの価値に見合った水準」へと引き上げるため、必達目標賃金に未達の単組は正々堂々と賃上げ要求を行う



うことを意思統一した。そして、JR産業を根底から支え続けてきた多くの仲間やその家族に想いを馳せ、逆風下でも決して下を向かず、加盟全単組が「ONE TEAM」でスクラムを組んで、足を止めることなく、一歩ずつ前を向いて進んでいく決意を固めあった。

冒頭、主催者を代表して挨拶に立った八木大星代表幹事（JR西日本連合・NESCO労組委員長）は、「コロナ禍でこの間、各単組が苦しい判断を度々迫ら

れてきたことは十分承知しているし、次年度以降の経営に対して大きな不安を抱いていることも理解する。しかし、闘う前から、経営環境が厳しいことを理由に『要求しない』『協議しない』ということにはならない。職場で苦しんでいる仲間、労働条件の改善を望んでいる仲間、そして昼夜を問わずJR産業の社会的役割を果たし続けている多くの仲間の声をしっかりと要求していくことが重要だ。そして、労使一丸となって、この難局を如何に乗り越えるかについても労使協議を展開し、JR7単組、グループ93単組が『ONE TEAM』で今次闘争に取り組もう」と熱く訴えた。

また、当日集会に駆け付けた荻山市朗JR連合会長は、今次闘争に取り組む基盤整備として、「雇用調整助成金の特例措置については、感染症が収束し業績回復が見込めるまでの継続を強く求めるとともに、公共的役割から事業を大幅に休止できない鉄道、バスなどの業種では、休業規模の要件緩和も不可欠である特有の事情を説明するなどの対応を進める。そして、今年度の予算措置や地方創生臨時交付金を活用した対策など、あらゆる支援を求めるとともに、感染症収束後はGoToキャンペーン再開など、積極的な需要喚起策を強く要求していく」と述べ、「危機にこそ労働組合の真価が問われる。厳しい闘いだ、闘争方針の基調を踏まえ、組合員の雇用と生活を守るために、それがひいては企業の業績回復の原動力にもなることを訴え、中長期的な視点から協議いただくよう要請する」と激を飛ばした。

続いて、幹事会がJR連合第33回中央委員会で決定した闘争方針を提起。各分科会代表者からの決意表明では、各会場から、企業を取り巻く厳しい経営環境が述べられた他、そうした中であっても、賃上げをはじめとした労働条件改善に精力的に取り組む決意が示された。その後、「集会アピール」を全体で確認し、八木代表幹事の団結ガンバローで氣勢を上げ、グループ労組の2021春季生活闘争が本格的にスタートした。